

今号の主な見出し

- ・1面 連載 防災対策 第1回「生き延びる」
- ・2～4面 町会・自治会紹介
- ・4面 協議会活動報告

連載 「災害時、生き残るための防災対策」

地震などの災害が起きたときに備えて、私たちはどのような対策をとればよいのでしょうか。

本号から「生き延びる」「助け合う」「備蓄する」という3回のテーマに分けて、生き残るための防災対策を考察します。



第1回 「生き延びる」



「地震・雷・火事・親父」と言う言葉、世の中の恐ろしいもの、敵わないものを順に並べた表現と言われています。地震や雷などの天災は、人間の力ではどうにもできないものです。また、「地震・雷・火事・親父」は「地震・雷・火事・大山嵐（おおやまじ）」だったのではないかとという説もあるようで、大山嵐とは台風のこと、これも人間の力ではどうにもできないものの一つです。大風（おおやじ）とも言われ、発音が少し似ていることに加えて、語呂の良さやユーモアの観点から、いつからか「おやじ」と読まれるようになったという説もあるようです。

いずれにせよ、予測がつかない地震が一番怖いもので、本年1月1日には能登半島地震が発生して甚大な被害をもたらしており、過去にも阪神・淡路大震災、東日本大震災など、地震と言え大災害が頭をよぎります。

防災対策と言うと、非常食などの備蓄から取り掛かる場合が一般的ですが、備蓄品が必要になるのは、私たちが生存している場合です。

まずは、私たちが生き延びるために何をすれば良いかを考えてみましょう。

- ① 住宅の補強をする。
- ② 家具の固定、家具の配置の工夫、ガラス飛散防止フィルムを貼るなど、室内での怪我を防ぐ。
- ③ 消火器を備えておき、火災を発生させない。
- ④ ハザードマップ等を確認しておく。
- ⑤ 一時避難場所・避難所※、避難経路、避難方法を確認しておく。
- ⑥ 家族で安否確認の方法を決めておく。



これ以外にも、地震が起きた時のさまざまなシーンでの対処方法（身の守り方）が福生市のホームページ「防災」の「地震が起きたら」に掲載されています。ご一読ください。(QRコード⇒)



※一時避難場所……災害発生直後、火災などの二次災害から逃れるため一時的に避難する場所
避難所……自宅での生活が困難になってしまった場合、またこれから被害にあう危険性が大きい場合などに一時的に避難生活を送るための場所

参考：Oggi「地震・雷・火事・親父」の意味や語源とは？もとは「親父」ではなかった？

マイベストプロ「過去の震災から学ぶ災害時生き残るための防災対策」